



「にこにこ赤ちゃんおはなし会」

(浦添市図書館)

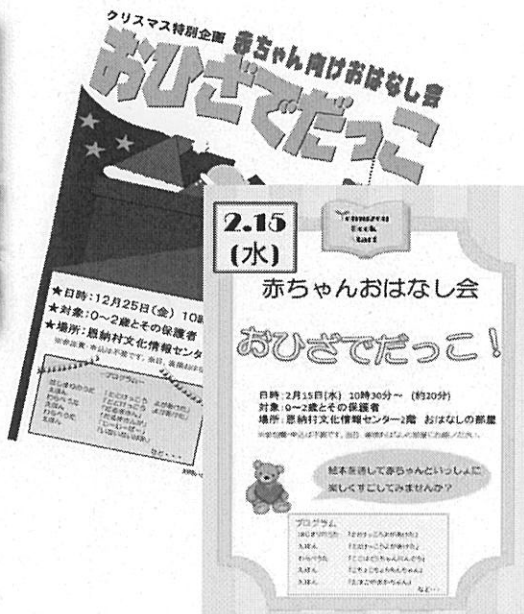
0～2歳児向けに、手遊び、歌、大型絵本等の読み聞かせを実施している。



「赤ちゃんおはなし会」

(恩納村文化情報センター)

0～2歳とその保護者を対象に、「おはなしの部屋」でわらべうたや手遊び絵本の読み聞かせを実施している。



④地域（公民館・児童館・保健センター・書店）において

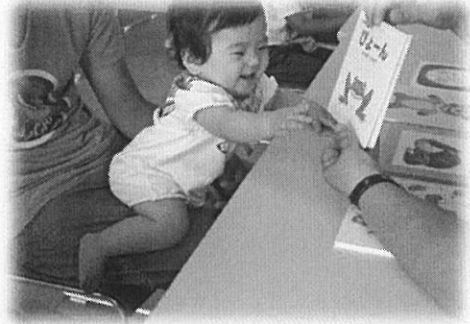
絵本紹介や読み聞かせ等、読書活動の場として活用を促し、読書に親しむ機会を提供します。

【具体的な取組例】

- ・ブックスタート事業の促進 (注③)
- ・セカンドブック事業の促進 (注④)
- ・家庭文庫、地域文庫の充実促進
- ・公立図書館との連携による移動図書館、団体貸出等の活用

注③ブックスタート事業：乳幼児検診の際に、受診したすべての親子に対して、図書館司書や保健師、読書ボランティアなどがそれぞれの立場から赤ちゃんと絵本を見ることの大切さや楽しさを保護者に伝えながら、絵本を手渡す事業。
1992年（平成4年）イギリスのバーミンガムから始まった。

注④セカンドブック事業：3歳児健診や小学校入学時などに、年齢にあった絵本を新たに渡す事業。



「ブックスタート事業」(那覇市)

那覇市では、生涯学習課、地域保健課、こどもみらい課、中央図書館が連携し、乳児検診のために訪れた9～11ヶ月の赤ちゃんと保護者を対象に絵本の読み聞かせを行い、気に入った絵本を一冊プレゼントしている。

<乳幼児健診会場等で行われるブックスタート>

ブックスタートは自治体が行う子育て支援事業のひとつです。赤ちゃんは、かつて自然の音、人間の声、親の声の中で育ち、安心感、信頼関係の習得、コミュニケーション能力を育んできました。しかし現代、便利さの中の子育て、電子機器の中での子育ては、それを減少させ、心の不安定な子どもが増えつつあるといわれています。

地域に生まれた全ての赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんの心の発達には愛情のこもった声が必要であることを伝え、遊びかた(読み聞かせ方法)を伝え、今日からすぐ実践できるように赤ちゃん絵本をプレゼントします。絵本は親に愛情溢れる声を出させ、赤ちゃんの愛らしい表情と声を聞かせる。最も重要なツールなのです。行政からの絵本のプレゼントは、赤ちゃんと保護者の心の貧困対策のひとつにもなっています。

⑤施設（医療・養護・福祉）において

各施設と連携し、読書環境整備等に協力します。また、就学前から読み聞かせ等を実施し、就学時における読書活動へのスムーズな移行を図ります。

【具体的な取組例】

- ・興味・関心、発達等に応じた図書の整備、読書スペースの確保
- ・お話し会等の実施
- ・公立図書館との連携による移動図書館、団体貸出等の活用



「子ども病院の読書コーナー」（県立子ども医療センター）

入院中や治療中でも子どもが読書活動ができるように、面会室や待合室に本棚が設置されている。読み聞かせボランティア団体の寄贈本等が並べられている。



待合室で専任の保育士が、子どもと一緒に積み木をしたり本を読み聞かせたりしている。（県立子ども医療センター）

(2) 学童期（小・中・高）における取り組み

学校図書館、公立図書館、公民館図書室等の活用を促進し、読書習慣の確立が図れるよう、読書環境を整備します。

①家庭において

ファミリー読書を生活の一環として位置づけ、読書習慣の確立が図れるよう読書環境を整備します。

【具体的な取組例】

- ・ファミリー読書の促進
- ・ファミリー本棚の設置促進
- ・学校図書館・公立図書館利用促進

②学校・学校図書館において

絵本、児童書・青少年向け資料の充実等を図ります。さらに、読み聞かせ・ブックトーク等により、自分で選択する本の幅を広げ、学校全体で読書習慣づくりに取り組む体制の推進を図ります。

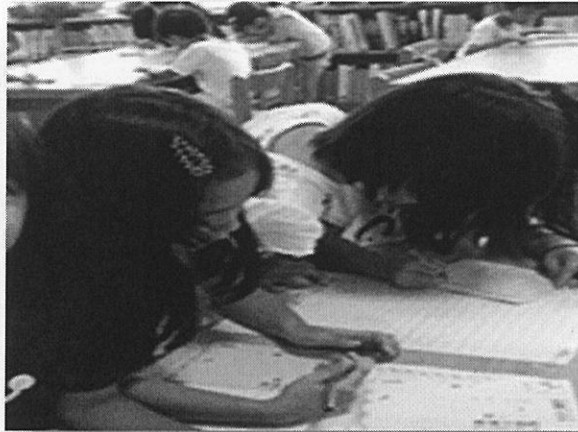
【具体的な取組例】

- ・読書案内並びに読書相談や定期的な資料展示
- ・学校図書館の地域開放
- ・計画的・継続的な読書指導の促進
- ・ブックトーク（注⑤）・アニメーション（注⑥）・ビブリオバトル（注⑦）等の読書活動の推進
- ・公立図書館との連携による移動図書館、団体貸出等の活用
- ・学校司書、学校図書館担当教諭の資質向上を目指した研修会等の開催

注⑤ブックトーク：あるテーマに沿って複数の本の内容を紹介し、読書意欲を起こさせる活動。多くは学校や図書館などで、児童・生徒を対象に行われている。

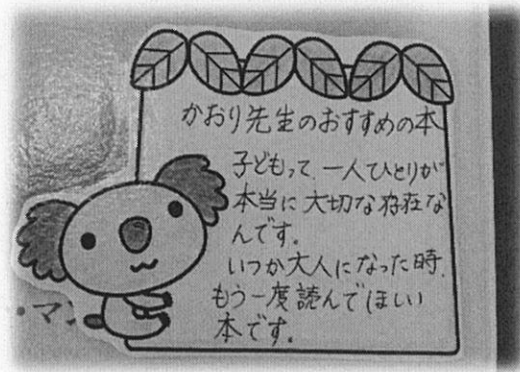
注⑥アニメーション：「活性化」の意味で、スペインのモンセラット・サルトが開発した体系的な読書教育法。

注⑦ビブリオバトル：参加者同士で本を紹介し合い、もっとも読みたいと思う本を投票で決める催し。



「読書月間の取り組み」(宜野座村立松田小学校)

全児童が、おすすめする本を友達や先生へハガキで紹介する読書郵便に取り組んでいる。
休み時間になると図書室は、本棚から本を取り出しハガキを書く児童でいっぱい。



「先生のおすすめの本」(糸満市立真壁小学校)

職員全員が児童に読んでほしい本を低中学年、高学年に1冊ずつ選び、手書きのポップと共に紹介している。



「企画展示」

(八重瀬町立具志頭小学校)

節分の日に関する資料や本を展示している。

「慰霊の日ブックトーク」

(八重瀬町立具志頭小学校)

沖縄戦に関する写真や本を展示し「平和」をテーマにしたブックトークを学校司書が実施している。

③公立図書館において

児童書や中・高校生向けの図書の貸出、資料に関するレファレンスサービス・読書相談や情報提供を通して公立図書館の有効活用を促進します。

【具体的な取組例】

- ・お話し会等の実施
- ・読書案内並びに読書相談や定期的な資料展示
- ・ブックトークの促進
- ・絵本や調べ学習用図書、読み物等の資料の計画的な整備
- ・保護者向け読み聞かせ講座の開催
- ・アウトリーチ活動の促進
- ・「沖縄県子どもの読書推進室」の活用促進



「YA文芸賞表彰」



「YA文芸賞作品集」

浦添市では、平成 21 年度から「うらそえ YA 文芸賞」を創設し、中学生から大学生（概ね 13～22 歳）の YA（ヤングアダルト）と称する YA 世代の読書推進に取り組んでいる。



「名護読書クラブ」

（名護市立中央図書館）

名護市内、周辺の町村の中学生や高校生が定期的に、好きな本を持ち寄り紹介し合っている。

④地域（公民館・児童館・保健センター・書店）において

読み聞かせ会等の活動の場として活用し、読書環境の充実を図ります。

【具体的な取組例】

- ・お話し会等の実施
- ・公共図書館との連携による地域文庫の促進



「みどり町児童センター」

（うるま市）

県立図書館の一括貸出を利用して、児童・生徒の読書支援を行っている。



⑤施設（医療・養護・福祉）において

各施設と連携し、読書環境整備等に協力します。

【具体的な取組例】

- ・読書スペースの確保
- ・お話し会等の実施
- ・公立図書館との連携による移動図書館、団体貸出等の活用



「子ども病院の読書コーナー」

（県立こども医療センター）

待合室で専任の保育士が、子どもと一緒に積み木をしたり本を読み聞かせたりしている。

<子どもの貧困と読書>

沖縄では、子どもの生活や成長に様々な影響を及ぼす「子どもの貧困」が大きな課題となっています。子どもは、読書を通して、知識を豊かにし、思考力・想像力が養うことができます。図書館は、無料で利用できる（社会）教育施設であり、子どもの貧困に立ち向かう「知のセーフティーネット」といえます。

学校図書館及び公共図書館は、全ての子どもに利用促進を図る必要があります。また、公共図書館から児童館や学童等児童施設へ一括貸出などを行い、子どもの読書環境の整備を推進していきます。現在、県立図書館では、児童施設に加え、児童福祉施設・矯正施設・母子生活支援施設等への一括貸出を行い、子どもの読書環境充実の支援を行っています。

3 地域の特色を生かした読書活動の推進と担い手の拡大

(1) 地域の人材や文化を生かした読書環境の推進

地域において読み聞かせの取り組みは盛んに行われていますが、地域間を超えた取り組みや連携という活動の広がりや点ではまだ十分ではありません。県民が等しく読書の機会に恵まれ、地域の特色を生かした読書活動を推進し、さらにそれを担う人材の育成を積極的に推進します。

①地域文庫、家庭文庫、公民館、児童館等の活動

地域の特色を生かし、地域の人材や文化を活用した読書活動や読書ができる環境づくりを推進します。

公立図書館や学校図書館だけでなく、地域文庫、家庭文庫、公民館文庫、児童館等での読書活動は、本に触れ読書に親しむ身近な場として大切な役割を果たしています。県内のどこにいても読書の機会を享受できるよう地域の読書活動を推進します。

【具体的な取組例】

- ・公立図書館の団体貸出制度の利用
- ・「沖縄県子どもの読書活動推進室」による選書の相談
- ・公民館祭りや児童館祭りでの「読書イベント」や「本のリサイクル市」の開催



「とりの絵本大集合」

(石垣市文庫連絡協議会)

石垣市生涯学習フェスティバルにおいて、親子で本への関心を高めるために、酉年にちなんだ絵本の展示を行った。

(沖縄タイムス社提供)

②読み聞かせ団体等の活動

学校や地域で活動する読み聞かせボランティアを対象にした研修会や情報交換の場を活用し、実践スキルの向上や相互の情報交換ができる取り組みを推進します。

【具体的な取組例】

- ・ 読書活動団体主催の講座や講演会
- ・ 各地区市町村読書担当者会議の「読み聞かせボランティア研修会」
- ・ 読み聞かせボランティア団体の研修や情報交換会
- ・ 「沖縄県子どもの読書活動推進室」の利用
- ・ 読書指導員による研修会

(2) 民間企業の読書活動の推進

読書活動は、企業にとっても事業展開のヒントを提供したり、そこで働く人の福利厚生として重要な役割を担ったりすることが期待されます。また、読書関連企業は、県民の読書活動の推進に大きな役割を果たしています。

①出版社・書店による読書活動

県内出版社や書店が主催して、講演会や研修会を開催することによって、読書や図書に対する関心をもたせます。書店での定期的またはイベントの一環としての読み聞かせ活動（お話し会）は、県民に読み聞かせの楽しさを伝えます。

【具体的な取組例】

- ・ 大型書店での定例お話し会の実施
- ・ 講演会の開催
- ・ 離島への出張販売

②その他の民間企業の地域貢献活動

民間企業が、読書を通して地域への貢献活動を行うことは、すべての県民に読書の意義や関心をもたせることに効果的です。

【具体的な取組例】

- ・ 小児科、産婦人科での読書講話
- ・ まちの本屋のおすすめ本リスト
- ・ 雑誌スポンサー制度への協力
- ・ 企業の主催する読み聞かせ講習会
- ・ 企業が主催する文芸コンクールの実施



企業による読み聞かせボランティア研修会（那覇市）

(3) 県産本・郷土資料の活用

県内で出版されている郷土資料の魅力や面白さを知り、郷土について学ぶ手段として県産本・郷土資料の利用を促進します。

①県産本・郷土資料の利用促進

他県に比べ、郷土資料が数多く出版されていることを県民に知らせ、県産本リストやおすすめの本などを紹介して情報発信します。

【具体的な取組例】

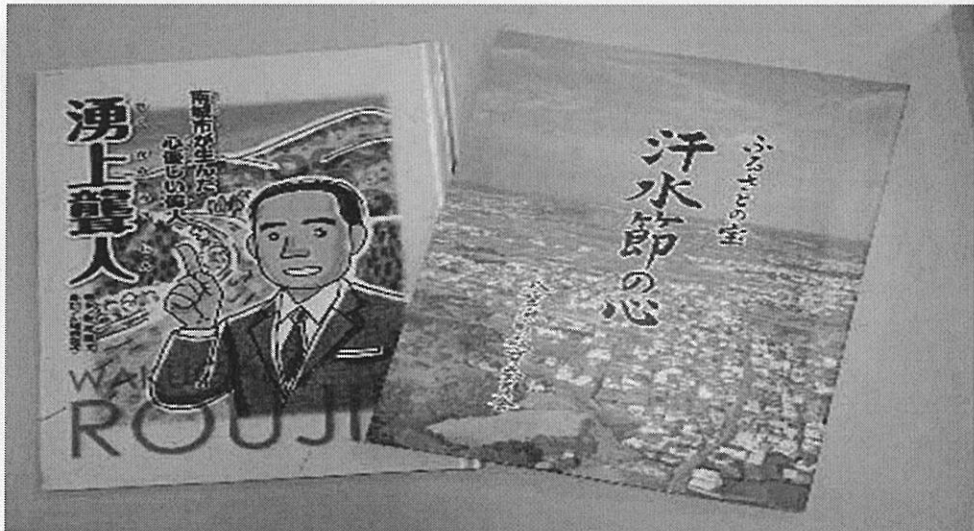
- ・ 県産本フェアの開催推進
- ・ 県産本ネットワークによる普及活動

②地域の独自の民話や伝説の資料化

地域の偉人や伝説、地域に伝わる民話などを再話して、絵本や紙芝居にし、広く周知することで地域の活性化を図り、ひいては生まれ育った地域を愛する心を育てます。

【具体的な取組例】

- ・ 地域の偉人の大型紙芝居、民話集、民話絵本の作成
- ・ 地域の偉人の副読本
- ・ 民話の絵本、紙芝居化



「八重瀬町・南城市の副読本」

町出身の仲本稔氏が作詞した「汗水節」を児童生徒向けに作成している。勤儉貯蓄の心を育てる道徳の教材としても活用している。

③しまくとうばの継承

沖縄文化の基層である「しまくとうば」を次世代へ継承するため、消滅する危機的状况にある「しまくとうば」を伝えることは、伝統と豊かな文化を次世代へ継承していくことでもあります。地域ごとに異なる「しまくとうば」の多様性を尊重し、資料の収集や作成を積極的に行い、学校での学習や読み聞かせ等に活用します。

【具体的な取組例】

- ・「しまくとうば」での昔話の読み聞かせや語り
- ・「総合的な学習の時間」や「クラブ活動」での「しまくとうば」読本やハンドブックの活用



「しまくとうば読本・ハンドブック」

(沖縄県文化振興課)

学校生活や年中行事などで使う県内の5つの地域の言葉が紹介されている。県内の小5と中2の児童生徒に配布されている。



「読書実演会」

(伊江村教育委員会)

年に1回、伊江島方言と共通語を織り交ぜた読み聞かせやわらべうたなどの実演を行っている。

(4) 地域の読書活動を支える人材の育成

読書活動を推進する上で、地域住民のボランティア活動は不可欠です。学校や図書館などでの読み聞かせ活動やお話し会の開催は、県民に読書の機会を提供します。こうした地域の読書活動を支える人材の育成を推進します。

①読書ボランティアの育成

読み聞かせボランティアは、県民に本に親しむ機会を提供しています。学校や地域と連携して読書活動を支えるボランティアの育成は、どこにいても読書に親しむことのできる環境をつくれます。

【具体的な取組例】

- ・図書館や公民館等で開催する読み聞かせ講座
- ・読み聞かせボランティア連絡会



「読み聞かせボランティア連絡会」

(名護市)

名護市内の小中学校で読み聞かせを行っている皆さんが自発的に集まり、季節の読み物やオススメの一冊を紹介しあっている。



「島尻ブックカフェ」

(島尻地区)

島尻地区の小中学校等で読み聞かせを行っている皆さんが集い、本の紹介やサークル運営等について情報交換を行っている。



「学校司書研修会」

(島尻地区)

島尻地区内の学校司書が定期的に資質向上のための研修会を開催している。

②読書指導員の育成

地域・学校等の読書活動ボランティアに対する指導助言者として活動できる等、子どもの読書ボランティア指導者を養成し、研修や講座を開催します。

【具体的な取組例】

- ・ 県立図書館や市町村立図書館での研修や講座の講師



「子ども読書指導員養成講座」

(沖縄県教育委員会)

著作権や選書の基礎、ブックトークの技法等を学んだ。

4 読書活動の拠点充実

県内どこに住んでいても読書に親しむ環境を整えます。また、生活や仕事に役立つ知識や情報、郷土の歴史文化を学ぶための図書館資料の充実を図ります。

(1) 県立図書館の充実

県立図書館は、県内図書館の拠点施設として、全県的な立場から市町村立図書館・図書館未設置町村の支援、専門資料の充実、大学・専門機関との連携を強化し、機能の充実を図ります。

①広域型サービス、市町村立図書館等の支援充実

県内どこに住んでいても、県立図書館の図書館資料を利用できる環境を整えます。特に離島及び遠隔地に住む県民へ図書館サービスの充実を図ります。

また、市町村立図書館等をサポートし、県内全域の図書館サービス充実を図ります。

【具体的な取組例】

- ・ 離島及び図書館未設置町村などで「移動図書館」の開催
- ・ 図書館、公民館図書室、学校図書館、地域文庫、医療機関等への「一括貸出」の実施
- ・ 離島等の拠点施設を窓口にして県立図書館資料を貸出する「協力貸出」の実施
- ・ 市町村立図書館間や大学図書館との図書館資料の相互貸借を円滑に行う「巡回車」の運行
- ・ 離島の市町村立図書館の相互貸借を促進する「離島相互貸借支援」
- ・ 市町村立図書館等への「レファレンス支援」
- ・ 「研修会の開催」を通じた市町村立図書館等の職員の資質向上
- ・ 市町村立図書館等のニーズに応じた図書館の「運営サポート」の実施



「一括貸出（夏休みセット）」

一括貸出は、長期間・大量の本を団体向けに貸出するサービス。事前に内容・対象・テーマ毎にセットを作成し、リストから選書もできる。